

1人1台時代の

ICT活用

第15回

「総合的な探究の時間」 の学習評価における オープンバッジ活用

岡田祥成

株式会社ネットラーニング教育事業部
(ICT CONNECT 21特別会員)

今年度から学年進行で施行されている高校の新学習指導要領では、「総合的な探究の時間」（総合探究）や「理数探究」などの領域、科目が追加され、「社会に開かれた教育課程」の実現が目指されています。

その中において、本稿では教員の皆さんが頭を悩ませておられるであろう「総合探究」の学習評価の問題に対して、最近注目を集めているデジタルバッジの仕組みについてご紹介します。

「総合探究」の学習評価で重視されていること

高等学校学習指導要領（平成30年告示）の解説に「総合探究」の学習評価の実施に当たっては、つぎの事項に配慮するものと示されています。

(1) 生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意味や価値を実感できるようにすること。また、各教科・科目等の目標の実現に向けた学習の状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に活かすようにすること。

(2) 創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、組織的かつ計画的な取り組みを推進するとともに、学年や学校段階を越えて生徒の学習の成果が円滑に接続されるように工夫すること。

すでにこの学習評価を実践されている教員の方も多くいらっしゃると思いますが、いわゆる期末テストなどで定量評価することができないところに、この科目の学習評価の難しさがあるとも言えるのかも知れません。

オープンバッジとは

まずこのオープンバッジというものは、誰がどこでどのようなスキルを身につけたのか、このような学修履歴をいつでも